

入選

清水 紀花(しみず のりか) 東京純心女子中 2年生

作品名：正しい時間の使い方とは？

図 書：モモ

私は、今までどのような時間を過ごしてきたのか。このモモという話は、時間がどのくらい大切なものなのかを教えてくれた。

私は、時間を使うのが下手だと思う。例えば、勉強やピアノをやっているふと時計を見るともうすぐ寝る時間。しかし、まだその日のうちにやりたい事が沢山残っていて寝る時間を守れないことがよくある。それに比べて、私の母は時間を使うのが上手だと思う。朝は、家族に朝食を出しながらお弁当を作ったり、妹の髪の毛を結んだり、同時に色々な事をしている。部屋を歩く時には、「手ぶらで歩かない」というのが母のモットーで常に何かしながら動いている。休みの日には、パンを作ったりしているが、その時にもパンを発酵させている時間に洗い物をしたり、掃除をしたりしてパンが焼き上がる時には、部屋や台所がピカピカになっている。母は、「時間は余分にはないから効率良く考えて行動したほうがいいよ。」

と言う。私は、毎日ピアノの練習を沢山やっている。その他に学校の宿題や復習など、勉強もしなくてはいけない。部活がある日は、帰りも遅くなるので寝るまでには限られた時間しかない。忙しい時には、車の中で勉強したり、食事をしたりする。起きている時間は目一杯使っているから寝る時間を減らすしかなくなってしまふ。

この話の主人公、モモは学校や習い事には行っていない。だから私とは違って時間が沢山ある。モモには、沢山の友達がいて、二人の親友、ベッポとジジと毎日楽しく暮らしていた。この時間は、モモにとってとても楽しい時間だった。けれど、灰色の男たちが街に現れてからは人間の時間の使い方が変わってしまう。その灰色の男たちは、街中を歩き回って人間がどのくらいの時間をむだに使っているのかを沢山の人間に説明した。そして、むだにしている時間を時間貯蓄銀行に預けるように言った。それにより、人間は忙しく働いて時間を節約しようとした。私も時間を預けてとっておけたらとても嬉しい。しかし、灰色の男たちは人間が忙しく働いて節約した分の時間を奮って貯めて、自分たちの為に使っていた。また、大人たちが一生懸命に仕事を

している間に子供たちまで灰色の男たちに支配されるようになっていた。子供たちは、「子どもの家」に連れていかれ、子供たちも時間をむだにすることができなくなった。このように、灰色の男たちは自分たちが特するような世の中にしていった。

私は、灰色の男たちは時間をお金のように扱っていると思う。お金は、私の家庭でも節約していて銀行にも貯金している。けれど時間は、貯金できるものではなくて、毎日決まった分だけしか存在するものであって、節約したら後で戻ってくるものではない。時間は、過ぎてしまったら前に戻すことはできない。

こうなってしまった世の中を前のような世の中にする為、モモは灰色の男たちに立ち向かう決心をする。その結果、灰色の男たちを消すことに成功した。これにより、時間貯蔵庫に貯めてあった時間が解き放たれ、世の中は以前の姿を取り戻すことができた。私はこの話を読んで時間のむだ使いについて知ることができた。宿題を学校でやる時には、しばしば友達と話し込んでしまい、あっという間に時間が過ぎ去ってしまうことがある。だけど友達とやることも大切なことだと思っているので普段は、宿題をなるべく早く終わらせて少しでも友達としゃべる時間を作りたいと思っている。友達との時間を作る為に、多くのやるべきことを普段から効率よくやって宿題と友達との時間をバランスをとってやろうと思う。

私は、この本の中でできた「人間はじぶんの時間をどうするかはじぶんできめなくてはいけない。」というホラの言った言葉がとても印象に残った。時間というものは、人間には作ることはできない。決まった分だけ毎日存在している。この限りある時間をどのように使うのか。これは自分自身にゆだねられている。限りある時間をいかに有効に使えるか。そのことを常に考えながら、二十四時間を大切に一生懸命頑張って立派な社会人になりたいと思う。